

毎月初めに「森林レンジャーあきる野新聞」を発行し、あきる野の自然やレンジャーの活動を紹介しています。4月号 (Vol.34) は、「アニマルサンクチュアリ (野生動物の聖域) のための活動について」でした。

年末に殺処分されたツキノワグマの命への想いとあきる野市の森の現状の話、多様な野生動物が暮らせる森が存在することは私たち人間にも必要なのだから、野生動物と棲み分けをしていくために調査を踏まえた行動を継続していくといった内容でした。この新聞を読んだ五日市小学校の一人の保護者が学校の先生に紹介し、先生が6年生の道德の授業で資料として使ってくれました。これだけでも、レンジャーとしてうれしいことですが、子どもたちが感じたことを話し合い自分の思いを書いたものを、先日、先生に紹介してくださった保護者から受け取りました。

文章を読んでいると、身近に野生動物が暮らす地域の子どもたちが、一頭のクマの命を通して野生動物との共存や、今の自分にできることを考えてくれたことがわかり、胸が熱くなりました。その一部を紹介します。

「人家に被害が出たのは人間の責任もあると思う。木を切ったり自然を少なくしているから。殺すのは人間の勝手だと思った。」「クマが人家に近寄ったのは生きるため、人を殺しに来たわけではない。でも、もし人に被害が出るのであれば処分は間違っていないと思う。」「残飯やゴミを外に捨てない。ご飯を残さず食べる。」「嫌だけれど大切な生き物をこれから守っていきたい。」「ここに住んでいるのは、人間だけじゃないんだから、人間が食物や土地を奪ってしまうのはダメだと思いました。みんなで、分け合って仲良く暮らせば、クマなどの動物も人間に被害は出さないと思うから。そうやって暮らしていけたらいいなと思いました。」子どもたちの文章を読んで、皆さんはどう感じますか。地域の自然と一緒に考えてみませんか。

発行している新聞は、市のホームページに掲載しています。最新号は、市内各図書館や市役所、瀬音の湯などで手に取ることができます。(加瀬澤)



朽ち果てた針葉樹 (マツ) から  
新しい命 (コナラ) が芽生えました